

## 国語 第6学年 目的や条件に応じて話し合おう

### 自分の学級に合わせて直すプロンプト

下の枠の文を全部そのままAI（ChatGPT・Claude・Gemini など）に貼り、質問に答えると、この単元の学習指導案が自分の学級に合わせて直ります。枠の後半には、直す対象の学習指導案が入っています。

あなたは小学校の国語の授業づくりを手伝う役です。この後に続く「みんなで楽しく過ごすために（第6学年）」の学習指導案を、私の学級に合わせて直してください。

先に、次の五つを一つずつ質問し、私の答えを待ってから次の質問に進んでください。まとめて聞かないでください。

一、学級の人数と、グループの組み方（何人で一つのグループにするか）。

二、既習のこと。司会や記録の役割を経験しているか、学級会などでどんな話し合いをしてきたか。話し合いの議題に使えるような、学級や学校の実際の予定は何か。

三、この学級の子どもの実態。発言が少ない子、発言が多い子、反対の考えを言いにくい学級の雰囲気などの実態。

四、この単元に使える時間数と、研究授業にする時間（何時間目か）。

五、使える道具。一人一台の端末があるか、録音できるか、共同で書き込める画面が使えるか、紙だけか。

五つの答えがそろったら、学習指導案を次の決まりで直してください。

学習指導要領の文言、評価規準の文言と文末は変えない。

教科書の本文や話し合いの例は引用しない。教科書の例を使う所は「先生が教科書から書き入れる」と書く。

議題、目的、条件は、私が答えた学級や学校の予定に合わせて書き直す。

時間数は私が答えた数に合わせ、削ったり足したりした時間がどれかを一覧にする。

本時の展開は、人数と道具に合わせて、活動の形（一人・ペア・グループ・全体）と使う物を書き直す。

つまりきへの手当ては、私が答えた実態に合わせて具体的に書き直す。

直した所の一覧を最後に付け、どの答えを根拠に直したかを一行ずつ書く。

文章は先生がそのまま使える言い方にし、比喻や決まり文句を使わない。

出力は、学習指導案と同じ見出しの順で全文を出してください。

直す対象の学習指導案は、この後に続けて書きます。

————ここから直す対象の学習指導案————

#### 第6学年 国語科学習指導案

1 単元名「目的や条件に応じて話し合おう」 教材名「みんなで楽しく過ごすために／コラム「伝えにくいことを伝える」」

#### 2 単元の目標

思考に関わる語句の量を増し、話や文章の中で使う（(1)オ）。目的や意図に合わせて話題を決め、集めた材料を分類したり関係付けたりして伝え合う内容を検討し、互いの立場や意図を明確にしながら計画的に話し合い、考えを広げたりまとめたりする（A(1)ア・オ）。言葉がもつよさを認識し、目的と条件に合う考えを進んで伝え合おうとする（学年の目標(3)）。

#### 3 単元の評価規準

〔知識・技能〕①思考に関わる語句の量を増し、話や文章の中で使っている。（(1)オ）

〔知識・技能〕②情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使っている。（(2)イ）

〔思考・判断・表現〕①「話すこと・聞くこと」において、目的や意図に応じて、日常生活の中から話題を決め、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝え合う内容を検討している。（A(1)ア）

〔思考・判断・表現〕②「話すこと・聞くこと」において、互いの立場や意図を明確にしながら計画的に話し合い、考えを広げたりまとめたりしている。（A(1)オ）

〔主体的に学習に取り組む態度〕①進んで、互いの立場や意図を明確にしながら計画的に話し合い、学習の見通しをもって、目的と条件に合う考えをまとめようとしている。

#### 4 指導上の考察

##### (1) 単元について

本単元は、学級や学校で、みんなが楽しく過ごすための活動を、目的と条件をはっきりさせてグループで話し合い、考えをまとめる単元である。話し合いの目的（何のために）と条件（時期・時間・場所・人数・使える物など）を先に確かめ、それに照らして考えを比べたり組み合わせたりすることで、学習指導要領第5学年及び第6学年のA(1)オ「互いの立場や意図を明確にしながら計画的に話し合い、考えを広げたりまとめたりすること」を働かせる。考えを広げる段階とまとめる段階を分けて話し合いの計画を立てることが、「計画的に」の中身になる。コラム「伝えにくいことを伝える」では、反対の考えや頼みにくいことを伝える時に、相手との関係を考えて言い方を選ぶことを学び、〔知識及び技能〕(1)ア「言葉には、相手とのつながりをつくる働きがあることに気付くこと」と結び付く。子どもは第4学年までに、司会などの役割を果たしながら話し合い、互いの意見の共通点や相違点に着目して考えをまとめる学習をしてきた（〔第3学年及び第4学年〕A(1)オ）。この単元で身に付けた話し合いの進め方は、学級会や委員会活動、中学校での話し合いにもいかせる。

##### (2) 児童について（学級の実態を書く）

##### (3) 指導について

指導に当たっては、次の三つを大切にする。一つ目に、話し合う前に目的と条件を全員で確かめ、黒板とグループの記録用紙に書いておく。話し合いの途中で迷った時は、いつもそこに戻る。二つ目に、考えを広げる話し合いとまとめる話し合いを別の時間に分け、それぞれで使う言葉（広げる時の「たとえば」「ほかには」、まとめる時の「目的に合うのは」「二つを合わせると」など）を確かめてから話し合う。三つ目に、話し合いを端末で録音して残し、自分たちの話し合いを聞き直して振り返る。話し合いは消えてしまうので、評価の材料を残すためにも記録をとる。本時は、目的と条件に照らして考えを比べ、理由を添えて自分の立場をはっきり言っている姿を「おおむね満足できる」状況、相手の考えのよさを取り入れて考えを組み合わせたり、条件に合うように考えを変える案を出したりしている姿を「十分満足できる」状況の目安にする。

#### 5 指導と評価の計画（全6時間）

第1次 第1時：○話し合いの議題を決め、目的（何のために）と条件（時期・時間・場所・人数・使える物など）を確かめる。○教科書を読み、話し合いの進め方を確かめて、単元の見通しをもつ。評価：態①（見通しの記述）

第2次 第2時：○議題について自分の考えをもち、目的と条件に合うかを確かめて、考えと理由をメモに書く。○グループの話し合いの計画（広げる・まとめるの順と、司会・記録の役割）を立てる。評価：思①（メモ・計画表）

第2次 第3時：○グループで、考えを広げる話し合いをする。質問したり、考えを付け足したりして、出た考えを表に書き出す。評価：知②（表・記録用紙）

第2次 第4時（本時）：○目的と条件に照らして、出た考えを比べたり組み合わせたりし、グループの考えをまとめる話し合いをする。評価：思②（観察・録音・記録用紙）

第2次 第5時：○各グループのまとめた考えと決めた理由を発表し、全体で聞き合う。○自分たちの話し合いの録音を聞き直し、進め方のよかった所と直したい所を話し合う。評価：知①（録音・発言）態①（観察）

第3次 第6時：○コラム「伝えにくいことを伝える」を読み、反対の考えや頼みにくいことを伝える時の言い方を考えて、話し合いで使った言い方と比べる。○単元の学習を振り返る。評価：態①（振り返り）

#### 6 本時の指導（4/6）

##### (1) 本時の目標

目的と条件に照らして、出された考えを比べたり組み合わせたりしながら、互いの立場や意図を明確にして話し合い、グループの考えをまとめられる。（A(1)オ）

##### (2) 学習過程

###### 【導入】

学習活動：1 議題と目的、条件を確かめる。

2 前時の考えを広げる話し合いで出た考え（グループの表）を見返す。

3 本時のめあてをつかむ。

○「出た考えの中から、どうやって一つにまとめますか」

【めあて】目的と条件に照らして考えを比べ、グループの考えをまとめよう。

#### 4 まとめ方を確かめる。

予想される児童の反応：・多数決で決める。

- ・目的に一番合う考えを選ぶ。
- ・よい所を合わせて新しい考えにする。
- ・条件に合わない考えを外していく。

指導上の留意点：・目的と条件は、単元の初めから同じ掲示を黒板の右に貼っておく。

・多数決が出たら、「人数で決めると、目的に合っているかは確かめられたかな」と問い返し、目的と条件に照らすまとめ方を全体で確かめる。

- ・まとめる時に使う言葉（目的に合うのは、条件から考えると、二つを合わせると、など）を掲示する。

#### 【展開】

学習活動：5 グループで、まとめる話し合いをする（司会・記録・時計係を決めておく）。

- ・考えを、目的に合うか、条件に合うかで表に書き分ける。
- ・残った考えを比べ、組み合わせられないかを話し合う。

○「その考えは、目的と条件のどれに合っていますか。合わない所はどう変えればよいですか」

6 途中で一度話し合いを止め、一つのグループの話し合いの様子を全体で聞く。立場や意図をはっきりさせた言い方と、考えをまとめるのに役立った言い方を確かめる。

7 グループの話し合いを続け、考えをまとめる。

予想される児童の反応：・Aさんの案は、目的には合っているけれど、時間の条件に合わない。

- ・二つの案のよい所を合わせて、前半と後半に分ければ、時間内にできる。
- ・ぼくは、全員が参加できるという目的を大事にしたいので、こちらの案に賛成する。
- ・反対ではないけれど、場所の条件を考えると、心配な所がある。
- ・それは、どういうつもりで言ったのか、もう少し聞かせてほしい。

指導上の留意点：・司会には、話し合いの計画（広げる・まとめるの順と時間）を手元に置かせる。時間は学級で決める。

・発言が少ない子には、表の中で自分が大事にしたい考えに印を付けさせ、その理由を一つ言う所から始めさせる。

- ・意見が対立して止まったグループには、「目的に戻ると、どちらが合っているかな」と目的の掲示を指す。
- ・反対の考えを言う時は、相手の考えのよい所を先に言ってから、心配な所と理由を言う順を紹介する。コラムは第6時で扱う。
- ・早くまとまったグループには、決めた考えに足りない所はないかを、条件を一つずつ当てて確かめさせる。
- ・話し合いを端末で録音し、第5時の振り返りと評価に使う。

評価：思② 互いの立場や意図を明確にしながらか計画的に話し合い、考えをまとめている。（観察・録音・記録用紙）

#### 【まとめ】

学習活動：8 各グループが、まとめた考えと決めた理由を一文で伝える。

【まとめ】考えをまとめる時は、目的と条件に照らして比べ、よい所を組み合わせると、みんなが納得できる考えになる。

9 振り返りを書く。

予想される児童の反応：・人数で決めるより、目的に戻ると決めやすかった。

- ・反対の考えも、理由があると考えがよかった。

指導上の留意点：・まとめは子どもの言葉を使い、まとめる時に使った言葉を掲示に書き足す。

・振り返りは「自分が立場や意図をはっきりさせて言えた所」と「考えをまとめるのに役立った友達の言い方」の二つで書かせる。

- ・次時は、録音を聞き直して話し合いの進め方を振り返ることを伝える。

#### （3）板書計画（縦書き・右から左へ）

右端に日付、題名、議題、めあて。その左に、目的と条件の掲示（単元を通して同じ物）。中ほどに、前時に  
出た考えの表（縦に考え、横に「目的に合うか」「条件に合うか」「よい所」「心配な所」）。その左に、まとめ

る時に使う言葉と、途中で全体で確かめた言い方。左寄りに各グループのまとめた考えと理由。左端にまとめと、振り返りの二つの観点。

AIが作成した授業案です。授業での検証は未実施です。自校の教材・年間計画・学級の実態に合わせて確認してください。



Threads「三重でAI使うなら」(@mie\_ai\_katsuyo)

[https://www.threads.com/@mie\\_ai\\_katsuyo](https://www.threads.com/@mie_ai_katsuyo)

LINEオープンチャット  
みえ先生ラボ

